

A.Sharp の立体(10)

中川宏

シャープの立体 No.10 は、60枚の菱形と24枚の扇形からなる84面体である。シャープが語るようにこの立体の構成法は極めて複雑で困難なものである。理解するためにはまず初めに、ねじれ立方体をイメージするのが妥当である。ねじれ立方体で正方形面を縮小して回転させるように、正方形の中心に扇形4枚からなる十字星を置き、これを一様に回転させる。そして3つの十字星の先端に接するように菱形3枚からなる六角形を配置する。そののち、六角形の外側を同じ菱形で埋める。こうして出来上がる姿は、じつにエレガントで美しい。まさにシャープの超絶技巧である。

Sharp's solid No.10
(60 rhombs and 24 semi-rhombs)

